

令和 5 (2023) 年度 IAMASの概要説明





情報科学芸術大学院大学

Institute of Advanced Media Arts and Sciences

— 目次 —

組織の概要	3
活動の概要	10
運営の概要	25

IAMAS の目的

情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] は、科学的知性と芸術的感性の融合を目指した学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、未来社会の新しいあり方を創造的に開拓する「高度な表現者」を養成するとともに、学術文化の向上及び地域の振興に寄与することを目的に、岐阜県が2001年に開学した大学院大学です。

- 沿革

- 1996 岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー (IAMAS) を設立
- 2001 情報科学芸術大学院大学を開設
メディア表現研究科 (修士課程) を設置
大学附属研究機関メディア文化センター (CMC) を設置
大学附属図書館を設置
- 2005 リンツ美術工芸大学と交換留学生協定
- 2010 メディア文化センター (CMC) を産業文化研究センター (RCIC) に改名
- 2012 岐阜県行政改革アクションプランにより国際情報科学芸術アカデミーを廃止
- 2014 ソフトピアジャパン地区へ、全学移転
- 2021 メディア表現研究科 (博士後期課程) を新設



西尾秋乃 (修士2年) 『戯れ子ばこ』
(2022 Golden Pin Concept Design Award
Design Mark Winners)

教 育 目 標

情報科学芸術大学院大学は建学の理念に基づき、新しい文化を創造する高度な表現力を授け、現代社会の諸問題に応答できる人の育成を教育目標として掲げています。

- 学位授与方針（ディプロマポリシー）

情報科学芸術大学院大学は建学の理念に基づき、科学技術と哲学・思想的視野をともなう新しい文化を創造する高度な表現者の育成を目標とし、その目標のために編成されたカリキュラムにおいて、所定の単位を取得することに加え、論文審査あるいは作品・論文審査、及び最終試験を合格した学生に修了を認定し、学位を授与します。

その際、以下の点が問われます。

- 専門性を有した自立したアーティスト・デザイナー・エンジニア・研究者・教育者として、必要な能力を身につけたか。
- 高い倫理性と強い責任感を意識し、未来の人間の生き方、幸福を追求しながら、研究が現代社会の諸問題に対する応答として成果を得ることができたか。
- 研究領域によらず様々な分野を専門とする人々とも互いに積極的に関わりあい、その交流の中から生み出される「新しい知」のあり方を身につけたか。

- 教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

情報科学芸術大学院大学は建学の理念に基づき、新しい文化を創造する高度な表現力修得を目指し、体系的に専門性を獲得するための実践的かつ領域横断的な科目を配置し、講義、演習、実習等を適切に組合せた高度な授業を開講するとともに優れた研究指導を行います。

- 高度な表現者としての素養を身に付けるとともに、社会の多様な要請に対応した幅広い知識と実践力を修得するため、プロジェクト科目および特別研究科目を設置する。
- 自らを批評し研究成果の社会的意義を問うための総合科目を設置する。
- 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために専門科目および制作演習科目を設置する。
- 問題発見力、課題探求力、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力など、研究において必須となる汎用的な能力を育成するため導入科目を設置する。

- 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

多様な背景を持った学生により高度な学習機会を与えるために、積極的な情報発信を行い、面接を主体とした多様な入学者選抜を実施しています。その際、以下のような学生の入学を想定しています。

- 自らの専門領域を活かし、他分野と横断的な探求をする。
- 情報社会の新しいあり方を創造的に開拓する。
- 人や社会との新しい関係性を考え、次世代の産業を創出する。
- 様々な形態の芸術表現から新しい文化を創造する。
- 情報やコミュニケーションに新たな形を与え、地域社会に提案する心豊かな社会の実現をめざす。

全ての大学等において、以下の三つの方針を一貫性あるものとして策定し、公表するものとする。

①修了認定・学位授与の方針、②教育課程編成・実施の方針、③入学者受け入れの方針

（学校教育法施行規則一部改正平成28年3月31日改正、平成29年4月1日施行）

学 生

- 芸術、情報、工学、社会科学の出身者等、分野の多様化が進んでいます。
- 社会人経験者が2～4割を占めます。
- 全国各地からの学生構成となっています。

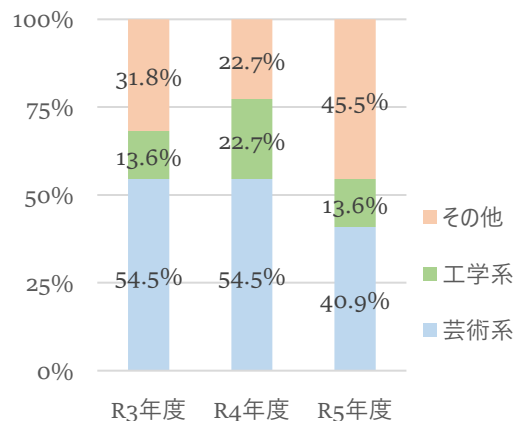
- 修士課程 学生受入状況 (人)

	入学者 (倍率)	性別		出身地別			経歴別					
		男	女	県内	県外	外国	大卒業	院修了	高専	研究生	専門 学校等	社会人
R5年度	22 (1.9)	11	11	2	17	3	20	1			1	5
R4年度	22 (1.3)	17	5	2	18	2	20	1			1	8
R3年度	22 (1.6)	13	9	7	12	3	18	3			1	8
R2年度	18 (1.8)	10	8	2	11	4	17				1	4

- 博士後期課程 学生受入状況 (人)

	入学者 (倍率)	性別		出身地別			経歴別					
		男	女	県内	県外	外国	大卒業	院修了	高専	研究生	専門 学校等	社会人
R5年度	3 (1.3)	2	1	0	3	0		3				2
R4年度	2 (1.0)	1	1	1	1	0		2				2
R3年度	3 (2.0)	3			3							3

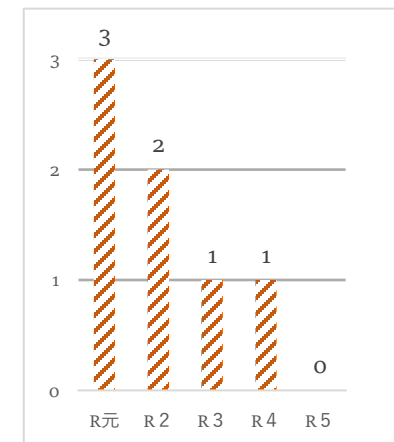
- 出身分野 (%)



- 出身大学等

- R5- 舞鶴工業高専、多摩美術大、大阪芸術大、立命館大、京都産業大、武蔵野美術大、東京女子大、玉川大、京都工芸繊維大、学習院大、東京大 (院)、京王義塾大、東京造形大、慶應義塾大、早稲田大 (院)、IAMAS (院)、名古屋大学 (院)、University of Southern California
- R4- 大阪芸大、早稲田大、明治大、名古屋造形大、多摩美術大、金沢美工大、九州産業大、電機通信大、立命館大、関西学院大、東北大、秋田公立美大、東京理科大、岡山大、東北学院大、岐阜大 (院)、名工大 (院)、IAMAS (院)、CHAINA UNIVERSITY OF GEOSCIENSE
- R3- 名古屋芸術大、多摩美術大、豊田工業大、東京藝術大、天津工業大、武蔵野美術大、お茶の水女子大、金城学院大、愛知工業大、九州大、グロービス経営大学院大、同志社大、名古屋学芸大、京都芸術大、慶應義塾大、中国美術学院、日本体育大、関西学院大、スタンフォード大

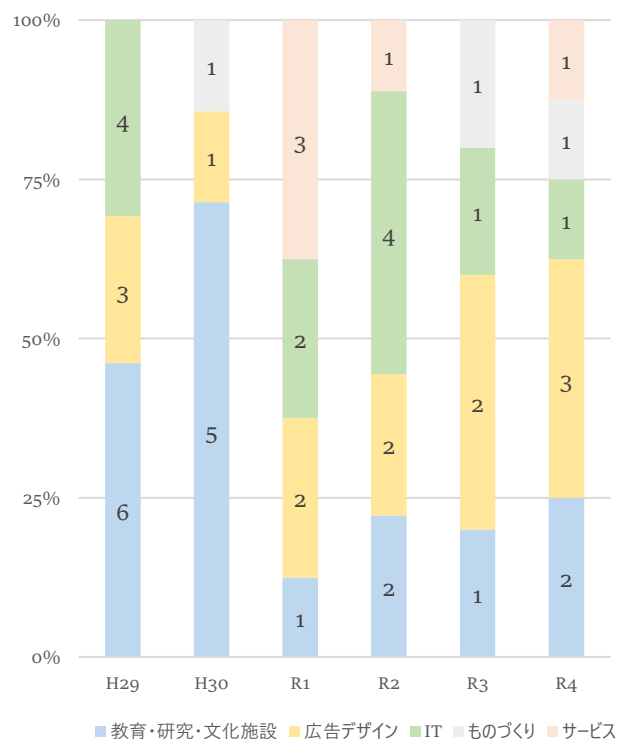
- 研究生の受入状況 (人)



進路

- 教育機関や文化施設、広告やデザイン系企業への就職が多い傾向となっています。
- 近年はベンチャー型ものづくり系企業への就職希望者が増えています。
- フリーランスや自営でデザインやアートなどクリエイティブな仕事をする者は3割程度あります。

- 進路状況（人）



- 修了生の進路

- 就職先（過去の主な就職先）

- 県内

(株)インフォファーム、(株)TAB、本巣市地域おこし協力隊、岐阜各務野高等学校、中村直永デザイン事務所、Fresh Lab Takayama、(公財)ソフトピアジャパン、(株)GOCCO、ちよいみせキッチン

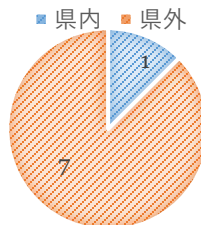
- 県外

NHK、名古屋音楽大学、(公財)京都芸術文化協会京都芸術センター、(株)オルタスジャパン、多摩美術大学、(株)サイバーエージェント、(株)ケイズデザインラボ、ユカイ工学(株)、(株)日本テレビアート、(株)二番工房、京都造形芸術大学、(株)プロノハーツ、Noiz Architects、NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]、(有)BANZAI CREATIVE、愛知淑徳大学、Takram desing engineering、(株)電通、(株)博報堂プロダクツ、(株)カヤック、(特非)こどもNPO、山口芸術情報センター[YCAM]、京都精華大学、秋田公立美術大学、(株)ゼオ、(株)QUANTUM、神戸芸術工科大学、(株)ライゾマティクス、名古屋芸術大学、(株)Hakbee Lanka、(株)桃鶴堂、(株)丹青社、1-10 drive、都城市立図書館、東京藝術大学、静岡文化芸術大学、同志社女子大学、関西学院大学、ANKR、DESIGN、SODクリエイト(株)、チームラボ(株)、EPFJ(株)、北アルプス国際芸術祭実行委員会事務局、ローランドディー・ジー(株)、(株)HAPPY ANALYTICS、(株)日本ビジネスプレス

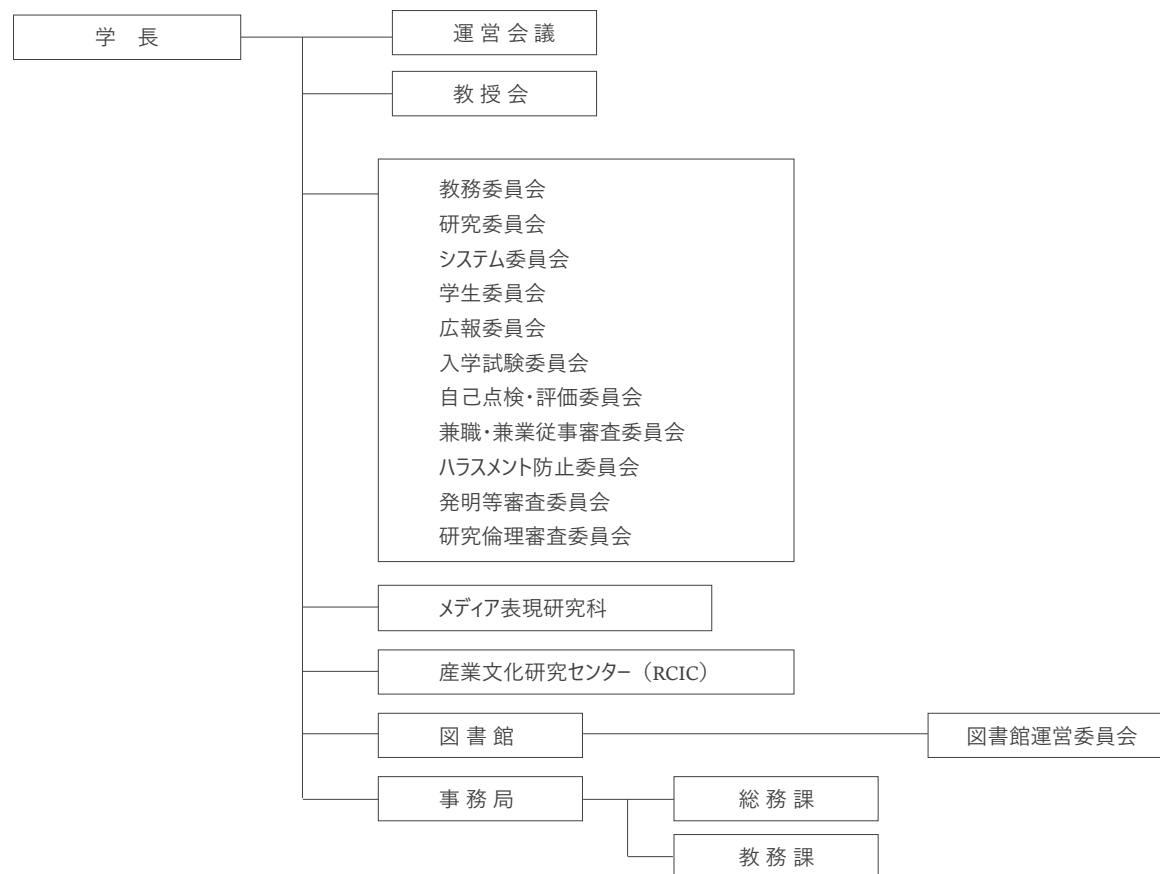
- 進学（過去の進学先）

京都市立芸術大学大学院美術研究科博士（後期）課程、慶應義塾大学大学院後期博士課程

- 就職先県内外別R4（人）



組織図



教職員数

	教授	准教授	講師	助教	教員合計 (左計)	事務局 職員	専門職等
大学院大学	15	3	0	0	18	10	12
(うち女性)	(1)	(1)			(2)	(4)	(6)

RCIC

- ・ 産業文化研究センター（Research Center for Industrial Culture 通称RCIC）は2011年度より開設されたIAMASの附置研究機関です。
- ・ 産業文化に関する学際的・総合的な研究を行うとともに、学外の諸機関との連携を図りつつ、本学の社会的機能を維持・発展させることを目的とし、「地域連携・産学官連携活動」「広報・情報アーカイブ活動」「文化活動」の3つを軸として活動しています。
- ・ 近年は、県内の自治体や企業とのネットワーク構築や、IAMAS卒業生との連携・協力等によるIAMASネットワークの強化にも力を入れながら、様々な活動を展開しています。

地域連携・産学官連携活動

- ❖ メディア表現を活用した体験型学習のデザイン
「イアマスこどもだいがく2023」

IAMASの研究や設備を用いた子ども向け講座で、様々なメディアを使用したユニークな表現体験から、テクノロジーを多様に活用する力、延いては新しい「もの」や「こと」を創造する力の育成を目指し、2017年から大垣市と連携し毎年実施しています。

2023年度講座

ワークショップ「ゴムの森」

開催日時および対象学年

第1部：7月29日（土） 10:30～12:00（1時間半） 小学1年生～4年生

第2部：7月29日（土） 13:00～16:00（3時間） 小学5年生・6年生

場所 ソフトピアジャパン センタービル3階 IAMASギャラリー-1

人数 各回10名ずつ、合計20名

内容

プログラミングの考え方を身体をつかって学ぶワークショップ。第1部は、小学1年から4年生向けに、身体をつかってゴムをすり抜けるという遊びを通じてプログラミングを体感することを力点を置いたワークショップを行いました。第2部は、小学5年生・6年生向けに、第1部でのワークショップ内容を踏襲するとともに、教育用の小型コンピューターボード「micro:bit」（マイクロビット）を使用し、実際にプログラミングを組むことで、子どもたちにとってより深い学びにつながるような場を提供しました。



広報・情報アーカイブ活動

- ❖ Kioskを使用したポスター展示

Action Design Research Projectが制作した空間デザインシステム「Kiosk」を使用して、IAMASの学校紹介とRCICの連携活動報告展示を行います。ポスター展示だけでなく、IAMAS School Guideや大学院紀要など、各種印刷物の配布も行います。

2023年度展示：

「IAMAS OPEN HOUSE 2022」

日程：2022年7月22日（土）-23日（日）

場所：ソフトピアジャパンセンタービル1F ふれあい広場



文化活動

- ❖ OPEN HOUSE

メディア表現研究科の教員と在学生が多様な研究成果を発表するイベントです。本イベントは学校紹介や進学相談の機会も担っています。科学的知性と芸術的感性の融合を目指した理論と応用を実践する研究科の取り組みを来場者と共有することを目的として、毎年開催しています。

IAMAS OPEN HOUSE 2023

2023年7月22日（土）-23日（日） 10:00-17:00

実施形態：対面開催

- ❖ Ogaki Mini Maker Faire 2022

IAMAS OPEN HOUSE 2022

2022年7月23日（土）-24日（日） 10:00-17:00

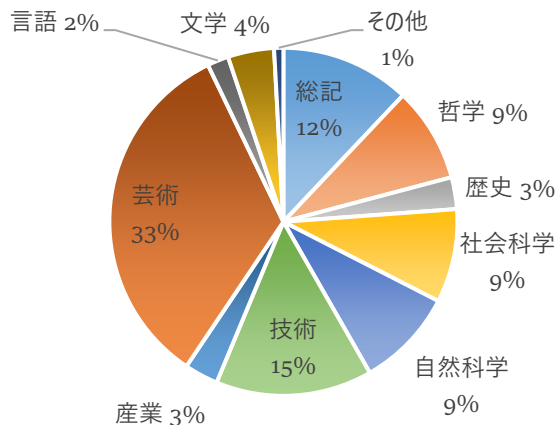
実施形態：対面開催*一部オンライン企画有



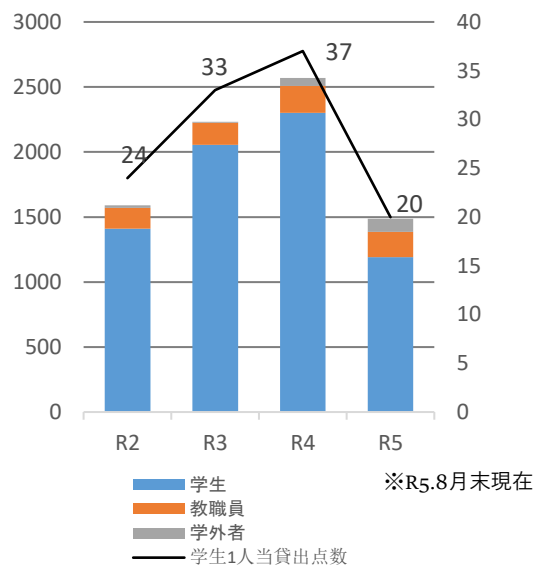
附属 図書館

- 教育研究支援
 - ・メディア表現の教育研究に資する資料を収集しており、蔵書構成では技術や芸術の分野の割合が大きくなっています。
 - ・教職員の協力でテーマを決めての資料展示や、定期的な新着図書案内のメール配信などをおこない、利用促進を図っています。
- 地域貢献
 - ・新型コロナウイルス感染症対策により、R2年度より学外者の利用を休止していましたが、R4.11より再開。
 - 県内在住・在勤者には図書の貸出も行っており、地域に開かれた図書館として機能しています。

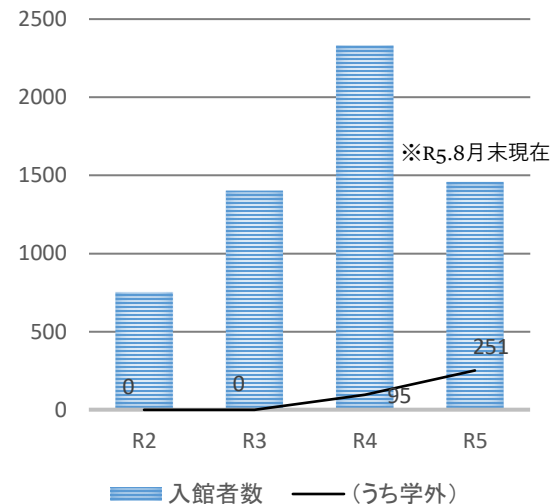
・分類別蔵書割合



・貸出点数



・入館者数



蔵書数 (R5.3現在)

図書	48,273冊
視聴覚資料 (DVDなど)	3,312点
雑誌	158種
データベース	3種
電子ジャーナル	6種

資料展示

- ・「TOKYO MELODY 1984 坂本龍一図書資料展」(4月～7月)
- ・「日本のメディア・アートを 雑誌メディアから検証する」(8月～)



附属 図書館

・R5年度 資料展示

・「TOKYO MELODY 1984 坂本龍一図書資料展」



- ・令和5年3月に死去した音楽家・坂本龍一に関連図書・雑誌を展示。
- ・図書館長・松井茂教授によるキュレーション。坂本龍一がソロ活動を開始した1984年に着目し、当時の週刊誌、大衆紙、ミニコミ誌を中心に展示した。
(※松井館長の蔵書が主)
- ・展示期間：5月29日～7月24日
- ・記者発表など学外にも広報を行い、新聞にも掲載。
- ・来場者合計：186人

・「日本のメディア・アートを雑誌メディアから検証する」



- ・1980～2000年代のメディア・アート・サブカルチャーなどに影響を与えた、『夜想』（ペヨトル工房）、『InterCommunication』（NTT出版）などの雑誌を創刊号から終刊号まで一括して展示。
- ・展示期間：8月3日～現在

教育

- IAMASでの授業は、個人、グループ、社会という構成を特色としています。「特別研究科目」は研究活動に対する課題解決に必要な方法等を習得するゼミ形式によるチームティーチングを特色とする科目です。
- 制作演習は、プロジェクト実習や個人制作を行うにあたって重要と思われる実践的なスキルを習得することを目的とした授業です。
- 2019年度から「社会人短期在学コース」を設置しました。また、2021年4月に博士後期課程を開設しました。

- 博士後期課程の設置（2021年4月開設）

IAMASは、修士課程のみの大学院大学として、最新の科学技術や文化を吸収しながら先端的な「芸術表現やデザイン、新しいコミュニティやものづくりのあり方などを社会へ提案し、実践的な研究を通じて「高度な表現者」の育成を目指してきました。

しかし、大学院において設置が一般的な博士後期課程が無いことで（国公立大学における博士課程設置率は約85%）、優秀な人材が他大学を選択したり、IAMASを卒業後に、さらに研究を継続したい学生がやむを得ず他大学の博士課程に進学するなどの課題が生じています。

そのため、修士2年、博士3年、計5年間の一貫教育研究体制を整備し、大学の魅力度を高め、社会実践力のある研究成果を生み出せる体制整備を目的として、博士後期課程の新設を申請し、2020年10月に文部科学大臣より認可を受け、2021年4月に開設しました。

[博士後期課程]

開設年月：2021年4月
 修業年限：3年
 入学定員：3人

[2021年度入学者]

出願者数：6名
 入学者数：3名（男性3名）

[2022年度入学者数]

出願者数：2名
 入学者数：2名（男性1名、女性1名）

[2023年度入学者数]

出願者数：4名
 入学者数：3名（男性2名、女性1名）

- 社会人短期在学コースの設置

本学は、2019年度より社会人短期在学コースを設置しました。

このコースは、作品制作や社会活動など何らかの実績がある人々や、企業などで先駆的な研究・開発テーマに取り組んでいる人々を対象とし、本学でそれらの実績を基に研究を進めることを前提として、通常は2年間の大学院修士課程を1年間に凝縮したカリキュラムで実施するコースです。

[コースの特徴]

通常は2年間の修士課程が1年間に凝縮されている他は全く同じ内容のコースとなっており、夜間や休日に開催される独立したコースではありません。

このため、自らの活動を振り返り、関連する分野について学び、徹底的に言語化することに集中できます。また、同時期に在学する他の学生と一緒にチームとして活動することを通じて、異分野の刺激を受け、修了後も継続する関係性を構築することができます。

[2021年度入学者]

入学者数：2名

[2022年度入学者数]

入学者数：3名

[2023年度入学者数]

入学者数：1名

研究

プロジェクト型研究:

- IAMASの研究の中心の一つにプロジェクト研究があり、研究の関心や方向性が示されます。これからの社会における創造や新しい社会を創るデザインをテーマにした研究が増えています。
- プロジェクト研究では、広い視野と企画力、組織力、加えてアイデアを実現に導くマネージメント能力などを身につけることを目指します。

体験拡張表現プロジェクト

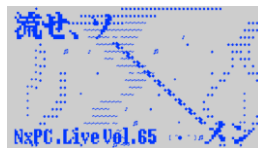
リアルタイム時空間・情報空間における体験には、高度なテクノロジーと表現が必要とされます。テクノロジーをいかに活用し、テクノロジーに適した高度な表現を研究することで新たな体験拡張の創造をもたらす表現を目指しています。情報工学、認知科学による知見を利用しながら、コーディングによる表現、xR技術や視覚・聴覚以外を用いた複合的な体験を対象とした研究を行っている。また音楽体験の拡張を目指した実験プラットフォームNxPC.Labにおける音楽イベントとの連携による実践的な展開を進めています。

研究代表者：平林真実教授、
研究分担者：前田真二郎教授、小林孝浩教授
2021年度～

●2023年度の活動

テクノロジーを用いた表現としてVR/AR/MRといったxRの利用、新たなインタラクションの可能性を模索する作品等の研究を実施している。また、東京コンピュータサービス（株）とMRによる音楽演奏システムAvatar Jockeyの共同研究も実施している。NxPC.Labの活動においては、NFTアートの展覧会P「roof of X」や名古屋でのイベントChromaとの連携活動も積極的に行っている。さらに、野外フェスMETAMORPHOSEでのデコ展示、高松でのイベントが予定されている。

- ・IAMASオープンハウスにおける作品展示（7月）
- ・情報処理学会エンタテインメントコンピューティング2023発表（2022年9月）
- ・NxPC.Lab における音楽イベント
 - NxPC.Live vol.63 HARDPIA @IAMAS Gallery1 2023.6.17
 - NxPC.Live vol.64 Proof of X x NxPC.Lab @代官山 Saloon 2023.6.25
 - NxPC.Live vol.65 流せ、そ〜〜めん @IAMAS Gallery1 2023.7.23
 - Chroma @マーケットソコ 2023.8.27 NxPC.Lab 出演
 - METAMORPHOSE 会場インスタレーション 2023.10.14-15
 - NxPC.Live vol.66 @やしま〜る(高松市) 2023.10.21



運動体設計

運動体とは、時間の経過とともに空間内の位置を変える現象や活動と定義し、日々の実践を遂行するための知見や方法論を探索します。アイデアを具体化するためのプロセスを検証し公開することを目的とします。任意グループ「クリティカル・サイクリング」の約6年間の実践を基盤とし、萌芽プロジェクト「プラクティカル・サイクリング」を経て、このプロジェクトを実施します。

手法としては、「運動体」にまつわる何らかの実践が芸術的、社会的、学術的な意義に繋がることを検証します。ここでの実践とは、グラフィック、詩、映像、ワークショップ、など様々な展開が想定されます。

研究代表者：瀬川准教授
研究分担者：赤松教授、桑久保教授
2023年度～

●2023年度の活動

- ・ ワークショップ（パンタグラフィ、シェイク自転車、他）6月・7月・9月
- ・ ダークツーリング（谷山集落・IAMAS旧校舎）7月
- ・ OPENHOUSE2023（早朝ライド・シェイク自転車）7月
- ・ Critical Cycleing (<https://criticalcycling.com/>) への記事投稿：4月～
- ・ グループでの実践と議論：10月～（予定）



タイムベースメディア・プロジェクト

最終年度を迎えたタイムベースメディア（TBM）プロジェクトでは前年度同様、毎週行われるミーティングを中心に、通年の活動と学内外の発表など期間の限られた計画の両方を通して活動を続け、また、学生の作品制作などもこのプロジェクトの実践として位置づけた。様々な『時間内・芸術』を参照しながら、メディアパフォーマンス作品を制作する一方、コロナ禍で解散したガムラン音楽サークルを学生たちが中心となって再結成し、その運営もプロジェクトの一環として行った。また、8月に開催されたサントリーホール サマーフェスティバル 2023ザ・プロデューサー・シリーズ『三輪眞弘がひらく「ありえるかもしれない、ガムラン」』をガムラン楽器の貸し出しをはじめとして全面的に支援した。また、10月から岐阜県美術館で開催される「AMAS ARTIST FILE #09 <方法主義芸術> 一規則・解釈・(反)身体」及び、12月開催の「岐阜おおがきビエンナーレ2023 <方法/Method>」の企画、準備、設営などもプロジェクトの活動として位置づけている。

研究代表者：三輪眞弘教授
研究分担者：前田真二郎教授、大久保美紀准教授
2018年度～

● 2023年度の活動

2023/08/25 -27

サントリーホール サマーフェスティバル 2023

ザ・プロデューサー・シリーズ 三輪眞弘がひらく「ありえるかもしれない、ガムラン」

主催：サントリーホール
協賛：京都芸術大学文明哲学研究所
後援：インドネシア共和国大使館
助成：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

2023/10/11-12/24 (予定)

IAMAS ARTIST FILE #09

方法主義芸術> 一規則・解釈・(反)身体

企画：

岐阜県美術館 (西山恒彦)

情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] (大久保美紀)

主催：岐阜県美術館、情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]

協力：IAMAS タイムベースメディア・プロジェクト

助成：公益財団法人 花王 芸術・化学財団

2023/12/07 -12/10 (予定)

岐阜おおがきビエンナーレ2023 <方法/Method>

企画：大久保美紀

主催：IAMAS



The Art of Listening

「きくこと」は人と人とが関係する全ての営みの土台といえます。そして、「きくこと」は私たちの研究や表現活動においてもとても重要です。個人のナラティブから公人のインタビューに至るまで、リサーチャー、フィールドワーカー、アーティスト、アーキヴィスト、エンジニアなどが、「きくこと」の実践を行っています。一方、語ることは、語り手と聞き手の相互行為による共同生成でありながら、「語り」に注目が集まり、「きくこと」に対してはあまり議論されていません。実際、多くの人たちにとって「きくこと」は受動的と思われるのかもしれませんが、「きくこと」は過去や現在に関わる行為であって、それが未来へつなぐとはあまり考えられていません。AOLでは、「きくこと」を表現技法として位置づけ、その方法論や実践、哲学的意義にアプローチすることを通じて、自発的で創造的な行為として考えていきます。

研究代表者：金山智子教授、研究分担者：吉田茂樹教授、松井茂教授
2023年度～

● 2023年度の活動

<プロジェクトの活動公開>

プロジェクトの活動について、AOLのウェブサイトにて公開しています。

<きくことをテーマとしたワークショップ>

2023年7月22～23日の本学オープンハウスにて、履修生たちで「だんわじつ」を企画・実施しました。多くの参加者があり、プロジェクト内での「きくこと」の体験を、他者への体験へと展開しながら、多くの学びを得ました。

<映画『ラジオ下神白』上映会とトークイベントの企画・開催>

2023年9月15日、岐阜市のメディアコスモスにて、いわき市の復興公営住宅で生活する人たちの支援プロジェクトのドキュメンタリー映画の上映とトークを開催しました。今回は「きくこと」をテーマに、オーディエンスの「きいたこと」をトークの中心におきながら、小森はるか監督とアサダワタルディレクターとトークを試みました。ゲストと参加者から予想以上のよい反応を得ました。



私に聴け

The Art of Listening
「きく」という行為は一体どのようなものなのか? The Art of Listeningのプロジェクトは、東海大学に在籍する学生、教職員、研究者、アーティストなどが中心となり、2023年7月22-23日に本学で開催されたオープンハウスにて実施された。このワークショップは、参加者同士が互いに「きくこと」の体験を、他者への体験へと展開しながら、多くの学びを得た。



福祉の技術プロジェクト

身の回りに潜む身近な課題等を技術を使って解決し、人々の生活を豊かにする活動を行なっています。ここでの福祉は、障害者福祉、高齢者福祉などに限定することなく、幅広いテーマを扱います。また、2021年より防災も一つのテーマに加え、毎年発生する災害から、我々自身のように備えるか、学校での備え（教育）はどうすべきか、などの活動も行ってきました。

昨年度から特別支援学校の先生と教材開発を継続し、今年度はICT教材作りをより手軽に行えることを目的とした教材開発プラットフォーム、causal SW（コーザルスイッチ）の提案を行なっています。

研究代表者：山田晃嗣教授
研究分担者：小林孝浩教授
2014年度～

●2023年度の活動

－ IAMASオープンハウス2023での展示
各PJメンバーが取り組む内容をパネルにて展示しました。

また、causal SW¹⁾を使った教材案をプロジェクト内で検討し、一部の事例とアイデアスケッチを展示しました。

2023年7月22日(土)、23(日)
場所 ワークショップ24 5階プロジェクト室

¹⁾causal SW: タッチセンサーと加速度センサーを内蔵し、それらに触ったり振ったりすると音やLEDで反応を示す、因果関係の理解を促す教材プラットフォームです。（右中にある茶色の箱）先生は子供たちが触れたり、振ったりする箇所を自作したり、出力する音の選定したりするだけで容易にICT教材として活用できるようになっています。

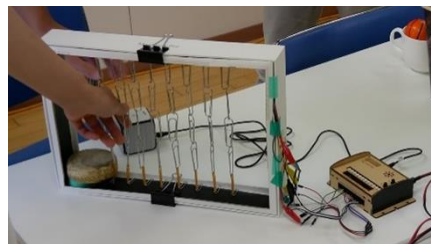
－ causal SW調理ワークショップの実施

特別支援学校内で行われた研修（7/26）で展示させて頂き、好評であったことから、先生に教材を作成して頂く機会（調理ワークショップ）を開きました。

2023年8月25日(金)
場所 岐阜県立大垣特別支援学校



展示の様子



causal SWを使った教材例



causal SW調理ワークショップ

場所・感覚・メディア

センサリー・メディア（感覚メディア）としての映像や音響による「場所」の表象を多角的に捉え直し、芸術表現の可能性を探求します。2年目となる2023年度は、様々な領域からゲストを招き「身体-環境」「自然-文化」の関係的な問題を学ぶと同時に、野外活動や場所体験を重視し、取り組んでいきます。さらにその成果として、参加メンバーによる自主企画や展示イベントを計画、開催していきます。

研究代表者：前林明次教授
研究分担者：小林孝浩教授
2022年度～

●2023年度の活動

－芸術表現研究では、映画『惑星ソラリス』（1972）、『オランダの光』（2003）、音楽『Thursday Afternoon』（1985）を鑑賞し、とりまくもの・知覚・表象の関係性について議論をおこないました。

－フィールドワークとして、金生山明星輪寺を訪問し、ランドスケープと表象の関係について学びました。安八郡での体験授業では畑の草刈りと収穫の実習を行いました。また春日山では、アンビソニック方式による音響の記録と再現方法を学びました。

－『養老天命反転地』を訪問・体験し『切り閉じる技術-ARAKAWA+GINSと世界原理』（稲垣諭）を参照しながら新たな芸術概念について学びました。

－文献研究として『生きていること』（ティム・インゴルド）、『トポグラフィとサウンドスケープ』（佐藤守弘他）をガイドとし、前期の活動を概念的に整理し、後期の制作活動につなげていく下地作りを行いました。

－12月には岐阜市・柳ヶ瀬をフィールドとしてプロジェクト展示をおこなう予定です。

右上段：養老天命反転地での実習 右下段：春日山でのフィールド録音



Collaborative Design Research Project

消費を前提とした社会的な閉塞感からサステナビリティへ移行しつつある中で、問いやデザインのあり方が問われています。特に地方や企業において、デザインがひとつのツールとして捉えられる傾向があり、デザインプロセスの理解や関わりも含め関係性を再検討し、新たな問いへ取り組まなければなりません。これまでの原因と結果に基づいた近代的デザイン方法乗り越えるためにも、デザインする人と対象との関係や全体性も含めデザインが関係・影響する範囲を検討していきます。地域の企業や自治体らと対話を進め、デザインの役割について調査します。互い目的が交差するプロトタイピングや共同研究へ向けた前段階の対話も含め、研究テーマへのフレームの設定やビジョンの共有、あるいはプロセスの理解も含め、関わりについて調査していきます。またデザイン方法論を取り入れて活動しているデザインコンサルタントや実践企業、あるいはアカデミックな専門家に対してインタビューを実施し、実例やその後の追跡も含め調査します。デザインと実際の対象間をブリッジさせ、その上に立ったことで得られる新しい視点を通して、今後のデザインについて検討していきます。

研究代表者：鈴木宣也教授
研究分担者：赤羽亨教授
2023年度～

● 2023年度の活動

2023/06/14

リサーチトリップ：飛騨高山の広葉樹のまちづくり

場所：岐阜県生活技術研究所、飛騨市広葉樹活用推進コンソーシアム、飛騨の森でクマは踊る

地域の現状をフィールドワークを通して考えるために、2023年6月にプロジェクト活動のひとつとして、飛騨高山へリサーチトリップに行きました。

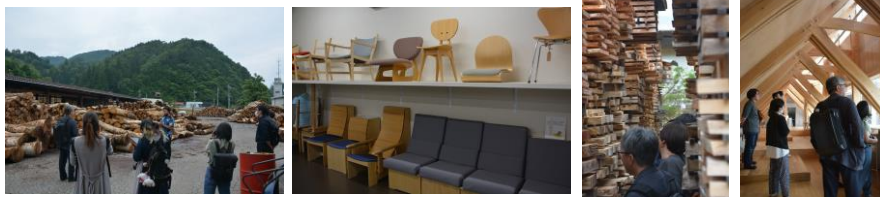
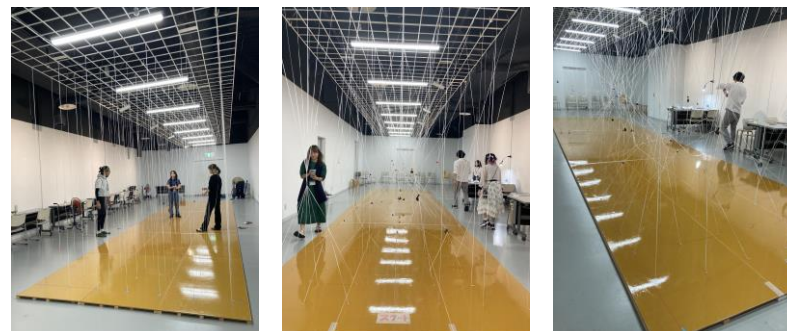
2014年から飛騨市は「広葉樹のまちづくり」と題し、広葉樹の活用を推進しています。今回のリサーチトリップでは、広葉樹の伐採から流通、活用までのそれぞれの工程に現場で関わっている方々を訪れ、現状をリサーチしました。

木材というと家や家具に使われており、その多くは針葉樹を使用しています。広葉樹は針葉樹のように真っ直ぐではなく、また木の色や太さが一様ではない上に樹種が多く、そのキャラクターの多さが特徴です。広葉樹は針葉樹と比べ個性が強いため、大量生産の材料には向かないとされてきました。飛騨高山地域は針葉樹よりも広葉樹が多く個性の強い材料が多くあります。しかし広葉樹の多くはチップとして加工され燃料やパルプなどへの活用がほとんどであり、あまり有効に活用されていない現状があります。そこで、他の活用方法を見い出すことが求められており、そのための飛騨における活動を知るために、今後の可能性についてリサーチしました。

2023/7/29

大垣市共同研究：イアマスこどもだいがく：「ゴムの森」

メディア表現を活用した体験型学習のデザイン（イアマスこどもだいがくの開催）と題し、大垣市と共同研究を実施しました。子どもを対象としたICT教育の研究として、IAMASの研究、及び施設を活用した子ども向け講座（イアマスこどもだいがく）を開発する。その実践を通じて、大垣市の子もたちに科学やICT技術への関心を深めてもらうことが目的です。今回は、コンピュータをつかわずに、プログラミングの考え方を学ぶワークショップを大垣市と実施しました。床と天井にはりめぐらされた、たくさんのゴムが張り巡らされた「ゴムの森」を使い、造形とプログラミングを組み合わせたワークショップをデザインしました。



外部資金研究

- 公費や財団助成による研究、受託や委託研究と多くの研究が実施されています。
- 一般財団（小川科学技術財団など）の助成を受けている教員も3割程度あります。
- 他機関の研究に研究分担者として参加する教員も増えています。

外部資金研究

科学研究費 / 日本学術振興会 Grant-in-Aid for Scientific Research

- 基盤研究C ◎カストロ・ホアン・マヌエル准教授
H30-R3 Investigation on wetware art in the post-digital age
- 基盤研究A 三輪真弘教授
H30-R4 1970年代以降の文学ならびに芸術における語りの形式についての領域横断的研究
- 基盤研究B 鈴木宣也教授
H30-R2 ヴィジュアルリテラシー普及に向けた基準策定とツールの開発
- 基盤研究C 赤羽亨准教授
R1-R4 時間軸を持つ3Dデータ及び映像・音響データを用いたアーカイブシステムの開発
- 基盤研究C 鈴木宣也教授
R5-R7 描画支援技術に対応したヴィジュアル・リテラシーの再定義と教育プログラムの開発
- 基盤研究C 松井茂教授
R5-R7 音響技師 菊池信之の映画音響表現技法研究
- 基盤研究C 赤羽亨教授
R5-R9 鑑賞者主観情報と時空間データによるVRアーカイブシステム開発
- ◎ = 研究代表者

公益財団法人小川科学技術財団研究助成金

- H30-R1 インターテイメントとしての共鳴現象を引き起こすAIの開発（金山智子教授）
- R1-R2 重要民俗無形文化財の継承支援のための四次元データアーカイブ（小林孝浩教授）
- R1-R2 デジタルアプリケーションを前提としたデザインシステムの開発（赤羽亨教授）

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化センター

- 重点共同研究 ◎松井茂准教授、前田真二郎教授、伊村靖子講師
R1 マス・メディアの中の芸術家像

京都大学人文科学研究所

- 共同研究拠点 ◎三輪真弘学長、松井茂准教授
R1 「システム内存在としての世界」についてのアートを媒介とする文理融合的研究

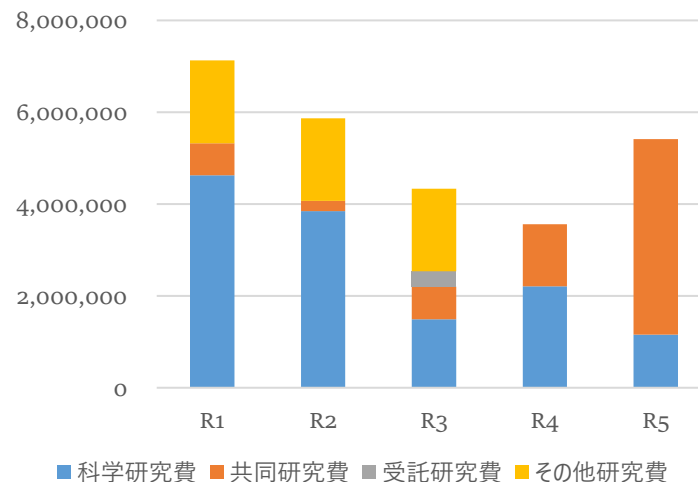
COI拠点「感性とデジタル製造を直結し、生活者の創造性を拡張するファブ地球社会創造拠点」（国立研究開発法人科学技術振興機構）

H25-R3 小林茂教授

共同研究

- R5 岐阜市（メディアコスモス）「市民のワークショップを通じた「みんなの森ぎふメディアコスモス」屋外用メディアラボの製作プロセスに関する実践的研究（赤羽教授）
- R5 公益財団法人岐阜かかみがはら航空宇宙博物館 「学習資源を活用した学習環境デザインに関する研究」他2本（赤羽教授）
- R5 東京コンピュータサービス株式会社 「デジタルツイン環境を前提としたMR/AR/VRを用いた表現システムの開発とその展開可能性の研究」（赤羽教授） 他

外部資金調達額 ※R5年度は10月末まで



受賞

IAMASの学生・教員は、毎年、各種の分野で賞を受賞しています。修了生の活躍については、近年ますます注目されています。

—2023

誉田千尋（2023年卒業）

『ナハトムジーク』

イメージフォーラム・フェスティバル2023 東アジア・エキスペリメンタル・コンペティション ノミネート

ALIMO（2008年卒業）

『並んだLAND』

イメージフォーラム・フェスティバル2023 東アジア・エキスペリメンタル・コンペティション ノミネート

監督：川添彩、音響デザイン：林暢彦（2023年卒業）

『とおぼえ』

イメージフォーラム・フェスティバル2023 東アジア・エキスペリメンタル・コンペティション ノミネート

川又龍人（2022年卒業）、大谷芳之（2021年卒業）

『Cybor Ichiba』

100BANCH Garage Program採択

すずえり（鈴木英倫子）（2007年卒業）

「移動について」

「OPEN SITE 8」2023年度実施企画 展示部門 採択

佐藤優太郎（2020年卒業）、今井健人、小鷹研理（2007年卒業）

『Buddha's Ear Illusion』

Best Illusion of The Year Contest 2023 トップ10

今井健人、茅野遥佳、小鷹研理（2007年卒業）

『XRAYHEAD』

Best Illusion of The Year Contest 2023 トップ10

大越円香（2023年卒業）

「Surface drawing」

anonymous art project competition 特別賞

河井健（博士前期課程1年）

『対話の不可能性（wall_01）』

IAG AWARDS 2023 入選

監督：川添彩、音響デザイン：林暢彦（2023年卒業）

『とおぼえ』（英題：Howling）

IndieLisboa 2023 Best Fiction Award

志村翔太（博士前期課程1年）

『新しい世界』

六本木アートナイト2023 オープンコール・プロジェクト採択

森田明日香（博士前期課程1年）

『Lag』

第28回学生CGコンテスト アート部門 Campus Genius Award

BRONZE 滝戸ドリタ 評価員賞

阿部和樹（2022年卒業）

『Latent Space Explorer』

第28回学生CGコンテスト アート部門 Partner Award CCBT賞

第一回AIアートグランプリ 佳作入選

守下誠（2022年卒業）

『ARama!』

第28回学生CGコンテスト エンターテインメント部門 Campus Genius

Award BRONZE 柳太漢 評価員賞

Behicle2（河合将也（博士前期課程1年）、塩澄祥大（博士前期課程1年））

『AKS』

第28回学生CGコンテスト エンターテインメント部門 Partner Award A

クセンチュア ソング賞

今谷真太郎（博士前期課程2年）

『レンゲ女王様』

月刊コミックフラッパー コミックフラッパー月例賞（2023年1月）

川田 祐太郎（博士前期課程2年）

『dægmeæl paramekairós』

やまなしメディア芸術アワード2022 Y-SILVER（優秀賞）

阿部和樹（2022年卒業）

『ParametriX』

やまなしメディア芸術アワード2022 入選

大久保雅基（2016年卒業）

『あなたが来たときに私はここにいた』

やまなしメディア芸術アワード2022 入選

加藤明洋（2018年卒業）

『WAN NYAN WARS』

やまなしメディア芸術アワード2022 入選

具志堅裕介（2017年卒業）

『WINDOW』

やまなしメディア芸術アワード2022 入選

鈴木英倫子（2007年卒業）

『女誠扇綺譚 兵将官祠』

やまなしメディア芸術アワード2022 入選

チームSewing（竹澤風太（博士前期課程1年）、石塚隆（博士前期課程1年）、森田明日香（博士前期課程1年）、椋木新

（社会人短期在学コース）

『Sewing Feelings』

やまなしメディア芸術アワード2022 入選

元橋洗佐、鈴木剛（2007年卒業）、小鷹研理（2007年卒業）

『キュービック体操』

やまなしメディア芸術アワード2022 入選

—2022

今谷真太郎（博士前期課程2年）
『ARコミック「壁」』
CREATIVE HACK AWARD 2022 Wacom賞
XR CREATIVE AWARD 2022 大賞

Behicle2（河合将也（博士前期課程1年）、塩澄祥大（博士前期課程1年））
『AKS』
2022 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリー インタラクティブアート部門 優秀賞
ISCA（INTERNATIONAL STUDENTS CREATIVE AWARD）2022 デジタルコンテンツ部門 ノミネート

竹澤風太（博士前期課程1年）、石塚隆（博士前期課程1年）、森田明日香（博士前期課程1年）、椋木新（社会人短期在学コース）
『Sewing Feelings』
2022 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリー インタラクティブアート部門 優秀賞

塩澄祥大（博士前期課程1年）
『構図と塗りの習作(猫)』
2022 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリー 静止画部門 優秀賞

金箱淳一（2008年卒業・神戸芸術工科大学准教授）、渡部直也、山村美紀、中村開、首藤圭介、内山博子
『Sympathetic Wear』
2022 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 一般カテゴリー インタラクティブアート部門 優秀賞/福岡県知事賞

今井健人、茅野遥佳、小鷹研理（2007年卒業）
『XRAYHEAD』
2022 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 一般カテゴリー インタラクティブアート部門 入賞

回転アニメーションWebアプリ「マジカループ」
制作統括：東京都写真美術館 教育普及プログラム
監修：井上仁行（パンタグラフ） 制作：飯塚修平、江口拓人（artrecorder）、村上寛光（卒業生・株式会社フリッカ）、石田哲朗（東京都写真美術館）、武内厚子（東京都写真美術館）
2022 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 一般カテゴリー エンターテインメント（産業応用）部門 優秀賞

川又龍人（2022年卒業）
『Inori』
第33回ザッカデザイン画コンペティション 大賞
第33回ザッカデザイン画コンペティション 査員賞（南馬越一義選考）

若見ありさ（2000年卒業）
『ガラッパどんと暮らす村』
映画連アワード2022 文部科学大臣賞

MATHRAX〔久世祥三＋坂本茉莉子（2008年卒業）〕
Artists in FAS 2022 入選アーティスト

今谷真太郎（博士前期課程2年）
『歩いて読み進めるARコミック』
異能vation 2022年度「ジェネレーションアワード」部門 株式会社ゼロワンプースター 企業特別賞

門田健嗣（博士前期課程1年）
『Nature/Posture』
2022年度グッドデザイン・ニューホープ賞 入選

森田明日香（博士前期課程1年）
『Lag』
ISCA（INTERNATIONAL STUDENTS CREATIVE AWARD）2022 デジタルコンテンツ部門 ノミネート

長野櫻子（博士前期課程2年）
『あなたが誰で、どんなに孤独だろうとも』
第28回学生CGコンテスト エンターテインメント部門 ノミネート

西尾秋乃（博士前期課程1年）
『戯れ子ばこ』
2022 Golden Pin Concept Design Award Design Mark Winners

Behicle2（河合将也（博士前期課程1年）、塩澄祥大（博士前期課程1年））
「改造自転車でもビリティマネジメント」
岐阜県技術活用型スタートアップ掘り起こし・加速化支援事業プログラム採択

楊慶新（博士前期課程1年）
「私」から見た豊田～デジタル空間上で地域の魅力を再発見～
2022年とよたデカスプロジェクト企画採択

浅尾楽（博士前期課程1年）、塩澄祥大（博士前期課程1年）
「レーザー加工機で何が出来る？！身の回りをちょっと便利にするものを作ろう！」
令和4年度大垣市市民提案事業・学生提案事業採択

永井歩（2022年卒業）
『Virtual Hallucinogen』
CREATIVE HACK AWARD 2022 ファイナリスト選出

デザイナー：佐野和哉（2017年卒業）
番組コンテンツ [ローカルフレンズ滞在記]
2022年度グッドデザイン賞 グッドデザイン・ベスト100

プロデューサー：宝珠山徹（2004年卒業）
ディレクター：小林茂（教授）
地域文化振興のためのコンテスト [「KDCC 北九州デジタルクリエイターコンテスト」の包摂的キュラトリアル・デザイン]
2022年度グッドデザイン賞

デザイナー：山辺真幸（2003年卒業）
8Kデータビジュアライゼーション [新型コロナウイルスの進化地図]
2022年度グッドデザイン賞

—2022

森田明日香（博士前期課程1年）

『Lag』

ART AWARD TOKYO MARUNOUCHI 2022 選出

菅野創（2009年卒業）、加藤明洋（2018年卒業）、綿貫岳海（2018年卒業）

『かぞくっち』

The European Media Art Platform (EMAP) 採択

ヨフ（柳川智之（2013年卒業）、大原崇嘉、古澤龍）

『Paraillusion』

メディア芸術クリエイター育成支援事業 令和4年度 国内クリエイター創作支援プログラム採択

山辺真幸（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科）（2003年卒業）・中川草（東海大学医学部基礎医学系分子生命科学）

『新型コロナウイルスゲノム系統樹の3次元可視化』

第33期可視化情報学会賞 技術賞

木村佳（2021年卒業）

「あなたがNEXTアーティスト！～ウィズコロナ 若手応援プロジェクト～」採択

林暢彦（博士前期課程2年）

『Harness』

Contemporary Computer Music Concert 2022 ACSM116賞 / MOTUS賞

企画・制作メンバー：井原正裕、岩谷成晃、宇佐美毅、遠藤舜、金スルギ（2014年卒業）、須藤史貴、田中喜作、藤岡定、村上ヒロシナンテ、もとはる、吉田めぐみ（2013年卒業）（以上 anno lab）、船津文弥、吉田ひかる、渡辺圭介

建築デザイン：西岡美紀（Kocochi Architect）、小島佳子（楓空間設計）

音響デザイン：KAMRA（中村優一 / invisi, inc）

企画・検証協力：的場寛

モータ制御システム制作：堀尾寛太（Ponoor Experiments inc.）、

新美太基

『太陽と月の部屋』

第25回文化庁メディア芸術祭 アート部門 大賞

石川将也／杉原寛／中路景暁（2019年卒業）／キャンバル・アルジェンジオ／武井祥平

『四角が行く』

第25回文化庁メディア芸術祭 アート部門 優秀賞

YAKUSHIMA TREASURE ANOTHER LIVE 制作チーム

テクニカルディレクター：堀宏行（2008年卒業）

『YAKUSHIMA TREASURE ANOTHER LIVE from YAKUSHIMA』

第25回文化庁メディア芸術祭 エンターテインメント部門 優秀賞

平瀬ミキ（2019年卒業）

『三千年後の投写術』

やまなしメディア芸術アワード Y-GOLD（最優秀賞）

第25回文化庁メディア芸術祭 アート部門 新人賞

中路景暁（2019年卒業）

『Roll Role』

第25回文化庁メディア芸術祭 アート部門 審査委員会推薦作品

蓑毛雄吾（2021年卒業）

『time in space, space in time』

やまなしメディア芸術アワード 入選

第27回学生CGコンテスト エンターテインメント部門 橋本善久審査員賞

第25回文化庁メディア芸術祭 アート部門 審査委員会推薦作品

『傀儡神楽』制作チーム（代表：池上 高志）

Alter3 Performance control interface development and operation:johnsmith（2015年卒）

『傀儡神楽 Alter the Android KAGURA』

第25回文化庁メディア芸術祭 アート部門 審査委員会推薦作品

全体統括・企画・クリエイティブディレクション：川崎鋼平（2004年卒業）

地球料理 -Earth Cuisine- #2「Bamboo Sweets」

2021 One Asia Creative Awards

[Green Award] Special Awards, [Silver] Design: Design for Good / Green, [Merit] Design: Product Design

天野真（博士前期課程2年）

『VOICE | NOISE』

第27回学生CGコンテスト アート部門 優秀賞

Scott Allen（2016年卒業）

（共同制作者：高石圭人、石井飛鳥、渋谷和史、リボクカン、小林篤矢、徳井直生）

『Compressed ideograph -visualized-』

やまなしメディア芸術アワード Y-SILVER（優秀賞）

Benda putar（森田了（2020年卒業））

サウンドパフォーマンス・プラットフォーム2022 公募アーティスト選出

受賞

IAMASの学生・教員は、毎年、各種の分野で賞を受賞しています。修士生の活躍については、近年ますます注目されています。

— 2021

天野真（修士2年）
『VOICE | NOISE』
CREATIVE HACK AWARD 2021 ファイナリスト選出

西尾秋乃（修士1年）
『戯れ子ばこ』
イメージフォーラム・フェスティバス2021 東アジア・エクスペリメンタル・コンペティション SHIBUYA SKY賞
ICAF2021 観客賞 5位
第27回学生CGコンテスト アート部門 ノミネート
ISCA2021（INTERNATIONAL STUDENTS CREATIVE AWARD 2021）国内映像コンテンツ部門 入選作

今谷真太郎（修士1年）
『ARコミック「通路」』
2021 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリー エンターテインメント（産業応用）部門 大賞/福岡県知事賞
第27回学生CGコンテスト エンターテインメント 白井宏旨評価員賞

蓑毛雄吾（2021年卒業）
『time in space, space in time』
2021 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 学生カテゴリー インタラクティブアート部門 大賞/総務大臣賞
CREATIVE HACK AWARD 2021 ファイナリスト選出
第27回学生CGコンテスト アート部門 ノミネート

MATHRAX〔久世祥三 + 坂本菜里子（2008年卒業）〕
『ステラノーヴァ』
2021 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 一般カテゴリー インタラクティブアート部門 入賞

スコット アレン（2016年卒業）、高石 圭人、石井 飛鳥、渋谷 和史、リボクカン、小林 篤矢、徳井 直生
『Compressed ideograph -visualized-』
2021 アジアデジタルアート大賞展 FUKUOKA 一般カテゴリー インタラクティブアート部門 入賞

内田聖良（2015年卒業）
『バーチャル供養堂』
NEWVIEW AWARDS 2021 VR WORKS部門 ファイナリスト選出

佐藤優太郎（2020年卒業）、今井健人、小鷹研理（2007年卒業）
『Slime Hand』
Best Illusion of The Year Contest 2021

武部瑠人（2021年卒業）
MUTEK.JP 若手クリエイター支援オープンコール選出

加藤明洋（2018年卒業）
『BAIS – Board game as a simulation of future society』
CREATIVE HACK AWARD 2021 ファイナリスト選出

金山智子（教授）
『災後・災間におけるコミュニティ放送による記憶の継承』
社会情報学会 2021年度優秀論文賞受賞

山辺真幸（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科）（2003年卒業）・中川草（東海大学医学部基礎医学系分子生命科学）・脇田玲（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科）
『新型コロナウイルスゲノム系統樹の3次元可視化』
可視化情報学会第49会可視化情報シンポジウム・アートコンテスト大賞

内田聖良（2015年卒業）
アーティスト・イン・レジデンスプログラム2021 “invisible connections” 採択

鈴木宣也（教授）
『プロトタイプングへ向けたアイディエーションツールの検討』
日本デザイン学会第68回研究発表大会グッドプレゼンテーション賞

全体統括・企画・クリエイティブディレクション：川寄鋼平（2004年卒業）

Earth Cuisine #2「BAMBOO SWEETS」
2021 One Show
Merit: IP & PRODUCTS部門 – Physical Product / Shortlist:
DIRECT MARKETING部門 – Physical Items / Shortlist:
EXPERIENTIAL & IMMERSIVE部門 – Physical Products / Shortlist: IN-HOUSE部門 – Agency-Initiated & Originated Projects / Shortlist: IN-HOUSE部門 – Social Impact / Shortlist: PRINT部門 – Promotional Items – Physical Products
第100回 ADC賞
Bronze: BRAND / COMMUNICATION DESIGN部門 – Innovation / Shortlist: IN-HOUSE部門 – Design for Good – In-House / Shortlist: IN-HOUSE部門 – Brand / Communication Design – Packaging Design / Shortlist: PACKAGING DESIGN部門 – Food / Beverage – Food – Series

金山智子（教授）
第71回「電波の日」総務省東海総合通信局長表彰

三輪真弘（教授）
第52回（2020年度）サントリー音楽賞

三輪真弘（教授）、前田真二郎（教授）、松井茂（准教授）
『ぎふ未来音楽展2020 三輪真弘祭 一清められた夜』
第20回佐治敬三賞

蓑毛雄吾（修士2年）
『digitized saxophonist』
NAGOYA NEW クリエイター映像AWARD 審査員特別賞/レゴランド®・ジャパン賞

藤本遼太郎（修士2年）
『CircleStair』
NAGOYA NEW クリエイター映像AWARD リニア・鉄道館賞

ー 2021

テクニカルディレクター・ハードウェアエンジニア：鈴木健太（修士2年）
「劇団ノーマーツ」
第24回文化庁メディア芸術祭 エンターテインメント部門 優秀賞

ヨフ（大原 崇嘉／柳川 智之（2013年卒業）／古澤 龍）
「2D Painting [7 Objects, 3 Picture Planes]」
第24回文化庁メディア芸術祭 アート部門 審査委員会推薦作品

鈴木英倫子（2007年卒業）
「Barricade」
第24回文化庁メディア芸術祭 アート部門 審査委員会推薦作品

テクニカルディレクション：天野真（修士1年）
『UNLABELED — Camouflage against the machines』
第24回文化庁メディア芸術祭 エンターテインメント部門 審査委員会
推薦作品

田中良治（2000年卒業）
「Tokyo TDC ウェブサイト」
第23回 亀倉雄策賞

地域貢献活動

・地域貢献活動の一環として、企業を対象とした岐阜イノベーション工房、高校生等を対象とした岐阜クリエイション工房を行っています。

岐阜イノベーション工房

岐阜イノベーション工房2022

2022年のイノベーション工房については、これまで実施していたシンポジウムを実施しないこととし、おおきくワークショップと成果・進捗報告会により実施しました

ー 岐阜イノベーション工房2022（ワークショップ）

岐阜イノベーション工房は、IoT・AI・デジタル設計／製造など、急速に浸透しつつある技術の世界的な変化およびその本質を学び、自ら製品・サービスのアイデアを創出し、実際に体験できるプロトタイプをつくらせることで体験することにより、イノベーション創出に取り組める人材を育成するプログラムです。

情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] がこれまでに確立してきた、デザイン思考とシステム思考に関する知見の中で、製品・サービスの開発に応用できる部分を短期集中の演習プログラムで学び、その後の実習プログラムで深めます。

2022年7月 - 2023年3月
会場 オンライン (zoom)
小林茂教授



(参加企業) 6社 4 チーム 11名
 エム・ピー・エス(株) : 4名
 株式会社情報量子 : 3名
 株式会社横田仏壇店、川崎文具店 : 2名
 八洲製作(株) : 1名
 サクラボテクノロジーズ合同会社 : 1名

ー イノベーション工房2022 成果・進捗報告会

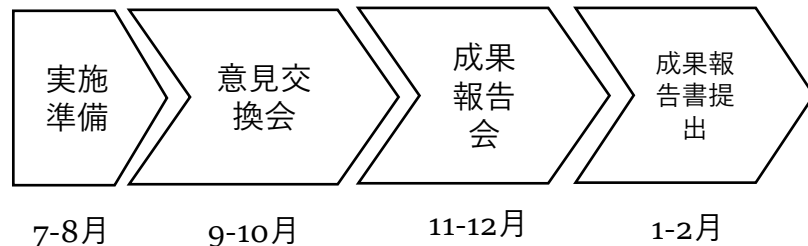
2022年の事業全体を振り返るとともに、参加企業が実習プログラムにおいて取り組んできた成果について報告しました。報告会には、参加企業関係者以外にも、イノベーションや新規事業創出に関する手法に興味のある方等にも参加いただき実施しました。

全プログラム終了後に参加企業に対して実施したアンケートでは、「社内からはでてこない、新たな気づきがあったよかった。」等の意見をいただきました。(今年度は、対面方式にて実施。)

2021年3月23日(木)13:30 - 16:30
 IAMAS 4F ホールA/B
 ※今年度の参加者だけでなく、今までの参加企業からも参加いただき、報告を受けた

岐阜イノベーション工房2023

岐阜イノベーション工房2023スケジュール



岐阜クリエイション工房

岐阜クリエイション工房2022

本学では、2019年度から、人文知と工学知の界面であるメディア表現に取り組む「アーティスト」たちと高校生などの若者たちが、ともに試行錯誤しながら作品をつくることを通じて、発想力や想像力を学ぶワークショップ「岐阜クリエイション工房」を実施しています。

2022年度は、3つのワークショップを開催するとともに、Ogaki Mini Maker Faire2022関連企画として、岐阜クリエイション工房2022成果展示及び各ワークショップ講師による成果報告・講評とディレクターとの議論を行いました。

総合ディレクター//小林茂教授 (IAMAS)

ワークショップ1 モノからクッション

概要：デザインするってなんだろう？

パソコンやデジタル工作機械の普及により、デジタルデータから手で触れられるモノを個人でつくることが容易な環境となりました。このワークショップでは、オリジナルのクッションカバーをつくることを通じてデザインすることを体験し、参加者同士のデータ交換からデジタルファブリケーションの楽しさを知ることを目標としています。自らの目で捉え、考え、作り出す。デザインするために必要な思考力を養います。

講師：高見知里、西垣由紀子

日程：2022年7月 - 9月 (全5回)

参加人数：高校生等9人

ワークショップ2 自分の電子楽器をデザインしよう！

概要：楽器というピアノやギター・ドラムなど、音楽室にあるものを思い浮かべるかもしれませんが、世界には様々な楽器があり、文化を形成しています。コンピュータを使えば、自分で楽器を作ることができます。このワークショップは、既存の楽器ではない新たな電子楽器を自分で制作することを通じて、音と音楽の違いの探求、楽器デザイン、演奏方法について探求します。音について考えるところから、電子楽器をデザインして製作し、演奏しました。

講師：岡村綾子、斉田一樹

日程：2022年7月 - 9月 (全4回)

参加人数：高校生等9人

ワークショップ3 NFTとGenerative Art

概要：プログラミングによってアート作品を作り、NFTとして販売するまでの流れを学びます。

「NFTとは何？」どうして作品が高額になり得るの？」そんな素朴な疑問を真剣に考え議論しながら学びを深めます。Generative ArtとNFTについての製作や批評を通じて理解を深めることを目的に、一人1点以上の製作はマストとしましたが、制作能力の向上よりも、見方や評価、判断のプロセスにおける知的な楽しさを重視しました。

講師：NIINOMI

永松歩

日程：2022年8月 - 9月 (全3回)

参加者：高校生等4人



< 岐阜クリエイション工房2022成果展示 >



< 岐阜クリエイション工房2022成果報告・講評会 >

IAMAS イベント

- 毎年、修了研究発表会・プロジェクト研究発表会を開催し、成果の発表を行っています。
- 隔年で岐阜おおがきビエンナーレおよびOgaki Mini Maker Faireを開催し、新しいアートやものづくりに関する発信を行っています。

IAMAS2023 第21期生修了研究発表会・プロジェクト研究発表会[修了展] Graduation and Project Research Exhibition

IAMAS2023は第21期生による修了研究発表会および 2022年度のプロジェクト研究発表会です。本展は、「失敗することの勇氣」をテーマとして開催しました。

2023年2月23日(木・祝) – 2023年2月26日(日) 10:00 – 18:00 (初日のみ13:00から)
ソフピアジャパンセンタービルほか
修了展示：17件
プロジェクト展示：6件
来場者数：約700名

-Program

2023.2.23(木・祝)

“メディア表現学研究会第1期” 主催：メディア表現学研究会

2023.2.23(木・祝)–26日(日)

“IAMAS2023ツアー” 主催：IAMAS2023実行委員会

2023.2.25(土)

トークイベント“IAMAS今昔物語2023”

主催：大越円香

登壇者：高嶺格、吉岡洋、安藤泰彦、大越円香

“NxPC.Live Vol.61-NxPC.25%減塩”

主催：NxPC.Lab

トークイベント“なべたんさんとトーク”

主催：小林玲衣奈

登壇者：渡邊朋也、小林玲衣奈

“林暢彦 電子音響作品集”

主催：林暢彦

2023.2.26(日)

“早朝耐寒ライド”

主催：Critical Cycling

“雑談”

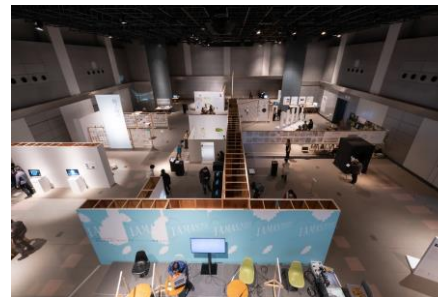
主催：チーム雑談(太田宙、宮崎那奈子)

“ガムラン部、ふたたび!!”

主催：小瀬泉

“林暢彦 電子音響作品集”

主催：林暢彦



IAMAS OPEN HOUSE 2023

開催概要：

メディア表現研究科の教員と在学生在が多様な研究成果を発表するイベントです。本イベントは学校紹介や進学相談の機会も担っています。科学的知性と芸術的感性の融合を目指した理論と応用を実践する研究科の取り組みを来場者と共有することを目的として、毎年開催しています。

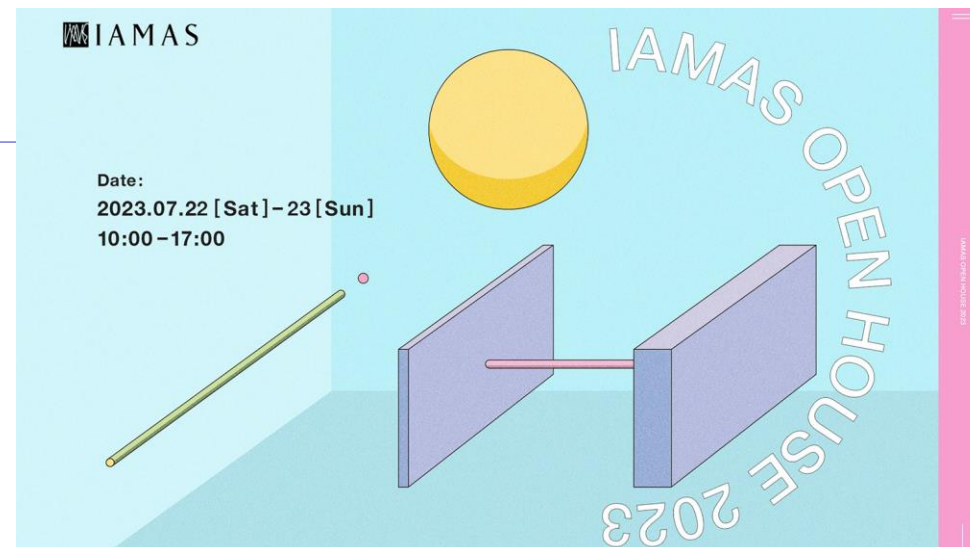
本年度の来場者数は22日が156名、23日が182名の二日間で計338名となりました。学校紹介が5件、個人・有志企画が16件、プロジェクト研究が8件の計29企画が展開されました。本イベントは、ソフトピアジャパンセンタービルならびにワークショップ24内にある学内施設のほとんど全ての場所を使用する形で実施されました。

開催日時：2023年7月22日(土) -23日(日) 10:00 - 17:00

実施形態：対面開催 センタービル、WS24各会場

開催企画一覧：

進学相談会 (IAMAS OPEN HOUSE 2023実行委員会) / 進学説明会 (IAMAS OPEN HOUSE 2023実行委員会) / 学内ツアー (IAMAS OPEN HOUSE 2022実行委員会) / Kioskを使用したポスター展示 (産業文化研究センター [RCIC]) / IAMAS Library(IAMAS附属図書館) / 1000年待ってください(菅田千尋) / 殺された夜から(空 kuu) / 陰翳暗鬼(松井美緒) / metarium: 日常に溶け込む未知の物性(平本大輔) / Perspective on ham(森田明日香) / 現代小説を読む会 (拡大版) (小林昌廣ゼミ) / Digitize(山岸奏大) / 人工知能の時代の芸術——「表現」とはなんだろうか？(メディア表現学研究会) / BISTRO HOUSE ふろぐらみんぐ(Alm*aЯch) / a_fraction_of_time.zip(Joanna Liu, 對中優) / code play/码上演绎(code player 01) / DOUBLE CLIPPER (NxPC.Lab)(zumisio,mowry) / 孔雀色(石塚隆) / NxPC.Live vol.65 流せ、ソ〜〜メン(NxPC.Lab) / 自然になるノイズ(塩澄祥大) / シンポジウム「超学際領域における研究の評価とは？」(メディア表現学研究会) / Collaborative Design Research Projectの紹介(Collaborative Design Research Project) / クリティカル・サイクリング早朝盛夏ライド(運動体設計プロジェクト+Critical Cycling) / EEE-Exhibition(体験拡張表現プロジェクト) / TBMプロジェクト展 2023(タイムベースメディア・プロジェクト) / 福祉の技術プロジェクト(福祉の技術プロジェクト) / だんわしつ(The Art of Listening) / IAMASガムラン演奏会(IAMASガムラン部、タイムベースメディア・プロジェクト)



Ogaki Mini Maker Faire

Ogaki Mini Maker Faire2022

Maker Faireは、「Maker」（メイカー）と呼ばれる、ものづくりの愛好家たちが全国から集い、電子工作やロボット、クラフト、電子楽器、サイエンス工作などに関する展示や発表を行い、相互に交流することで、ものづくりの楽しさを共有するイベント。7回目となる今回は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策を講じての開催となりましたが、イベント当日は全国各地から延べ3,200名の皆様にご来場いただき、ソフトピアジャパン会場に並んだユニークな展示作品を、実際に見て、触れて、体験していただくことができました。また、今回新たな試みとして〈メタバース〉会場（2D会場／AR・VR会場）を設け、イベント会期中に大垣まで足をお運びいただけない方も参加できるようにいたしました。

開催日：2020年12月3日（土）－12月4日（日）

開催場所：ソフトピアジャパン・センタービル
〈メタバース〉会場(Gather・STYLY)

主催：Ogaki Mini Maker Faire 2022実行委員会、

共催：(株)オライリー・ジャパン

後援：経済産業省、岐阜県教育委員会、大垣市教育委員会、大垣観光協会

総合ディレクター：小林茂教授

出展者：102組

（北海道1組、東北2組、関東34組、中部44組（岐阜県13組）、近畿・中国2組、九州1組、海外1組）

プレゼンテーション：21組

来場者数：約3200人（事前予約制とし、入場者数を制限して実施）

【関連企画】

－ 岐阜クリエイション工房2022 作品展示・講評会

会場内において、作品展示を行うとともに、ワークショップ講師による講評会及びトークイベントを開催。

- 成果展示 2022年12月3日（土）－12月4日（日）
ソフトピアジャパン・センタービル3階 ギャラリー2
- 成果報告・講評会 2022年12月3日（土）13:00-14:30
ソフトピアジャパン・センタービル1階 セミナーホール

－ connect2 (NxPC.Lab)

- 成果展示 2022年12月3日（土）－12月4日（日）13:00-16:00
ソフトピアジャパン・センタービル3階 ギャラリー1



共同研究 受託研究

※ 共同研究 : 必ずしも研究資金の授受を問わず、人材交流や技術・施設の共用による研究であり、契約を締結したもの
 ※ 受託研究 : 官公庁、自治体や民間企業などから受託して行う研究

2023.09現在

- 共同・受託研究

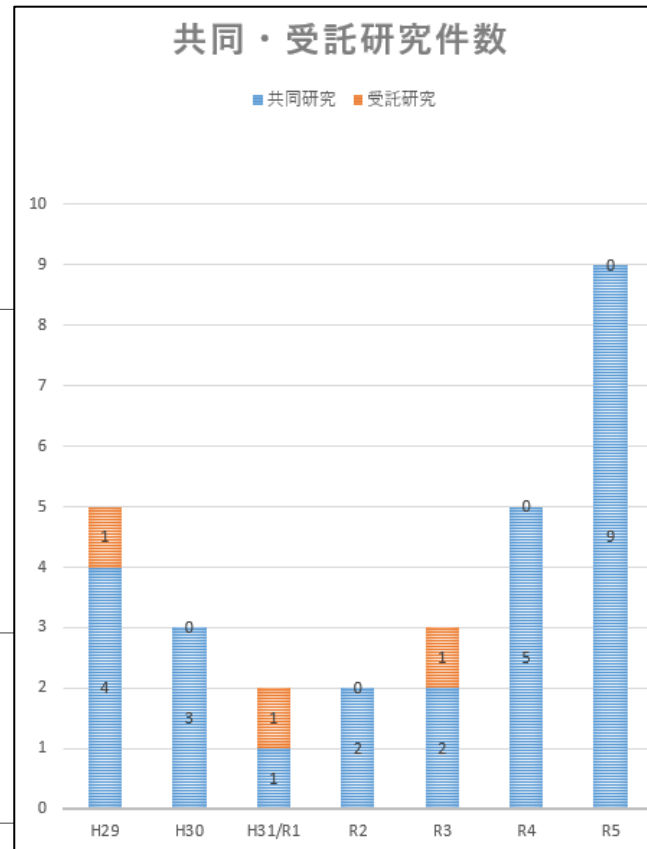
- 東京コンピュータサービス㈱《平林真実教授》
 テーマ:デジタルツイン環境を前提としたMR/AR/VRを用いた表現システムの開発とその展開可能性についての研究
- 岐阜市 (赤羽亨教授)
 テーマ: 市民ワークショップを通じた屋外用メディアラボの製作プロセスに関する実践的研究
- (公財) 岐阜かかみがはら航空宇宙博物館(赤羽亨教授)
 テーマ: 学習資源を活用した学習環境デザインに関する研究 他 2 本
- 大垣市 (鈴木宣也教授、赤羽亨教授)
 テーマ: メディア表現を活用した体験型学習のデザイン
- (株) asyl / (株) FLAME (赤羽亨教授)
 テーマ: AR音声ガイドに特化したサウンドデザインに関する研究 / AR音声ガイドに関するUI設計に関する研究
- 三菱鉛筆 (株) (鈴木宣也教授・赤羽亨教授)
 テーマ: アイデアスケッチを活用したデザインプロセスに関する実践研究

- 東京コンピュータサービス㈱《平林真実教授》
 テーマ:MR/AR/VRを用いた表現システムの開発とその展開の可能性の研究
- 東京コンピュータサービス(株)(赤羽亨教授)
 テーマ: デジタルツインを活用した映像インスタレーションの設計
- (株)オアシスパーク(赤羽亨教授)
 テーマ: 観光資源を用いたメディア表現の展開における実践的研究
- (公財)岐阜かかみがはら航空宇宙博物館(赤羽亨教授)
 テーマ: 学習資源を活用した学習環境デザインに関する研究
- 大垣市 (平林真実教授)
 テーマ: メディア表現を活用した体験型学習のデザイン

- 東京コンピュータサービス㈱《平林真実教授》
 テーマ:MRを用いた表現システムの開発とその展開の可能性の研究
- 本巣市《鈴木宣也教授、金山智子教授》
 テーマ:森のアートプロジェクトに関する共同研究
- 大垣市 (平林教授)
 テーマ: メディア表現に関する体験型学習のためのワークショップデザイン

- 東京コンピュータサービス㈱《平林真実教授》
 テーマ:MRを用いた表現システムの開発とその展開の可能性の研究
- Acoustics Spectra Communication 《小林孝浩教授》
 テーマ:意識レベル指標としての心拍測定技術の研究

- 共同・受託研究件数



- 2022～2023年度の共同研究活動紹介

大垣市との連携実績

メディア表現を活用した体験型学習のデザイン -「イアマスこどもだいがく2023」の開催-

大垣市情報企画課と連携し、IAMASの研究や施設を用いた子ども向け講座を開催することを通じて、様々なメディアを用いた体験型学習のデザインを実践的に研究しています。7年目となる今年度は、IAMASの博士前期課程プロジェクト「Collaborative Design Research Project」の一環として、プログラミングの考え方を身体をつかって学ぶワークショップ「ゴムの森」を対象年齢に合わせて設計、実施しました。

目的：

このワークショップの目的は大別して2つに分けることができます。1点目は、子どもたちが遊びを通じて「プログラミング」を身近なものとして感じ、情報科学や文化芸術に関心をもつきっかけづくりとなる機会を生み出すことです。2点目は、ワークショップの企画、設計、実施をIAMASの学生が主体となって行うことで、創造的な学びの場をいかにすれば提供できるかを、IAMASの学生たちが実践を通じて探求する機会を生み出すことです。

成果：

定員を大幅に超える応募があり、ウェブやちらしでの告知段階から「イアマスこどもだいがく」に市民が関心を持っていることが推察されました。また、大垣市と協働で行ったアンケートでは、参加者全員が「とても楽しかった」または「楽しかった」と回答し、プログラミングを学ぶことの楽しさを体感できた結果となりました。

また、ワークショップの運営を行った学生たちは、専門知を子どもたちにわかりやすく伝えることや、子どもたちの創造性を引き出す技法について、実践的に学ぶことができました。

連携先：大垣市情報企画課

連携期間：2023年4月-9月

担当教職員：鈴木宣也、赤羽亨、高森順子

参加学生：岡本悠里、菊田佳恵、橋本正隆、小南菜子

フライヤーデザイン：大山千尋（IAMAS卒業生）



ゴムを束にしてマジックテープで止めるステップを踏んでから、改めてゴムをすり抜ける遊びを行う。この繰り返しがプログラミングの設計と実行の基本であることを子どもたちに体感してもらった。



また、ワークショップの合間には、学生が講師となり「プログラム」という言葉の成り立ちからレクチャーも行った。日常生活で「プログラム」の考え方が使われていることを伝え、より身近なこととして感じてもらえるよう工夫した。



教育用の小型コンピューターボード「micro:bit」（マイクロビット）を使い、ゴムに触れると音と光が出るプログラミングも行った。



ゴムを結ぶ（＝プログラミングを設計する）→ゴムをくぐり抜けて遊ぶ（プログラミングを実行する）を繰り返しながら、チームにわかれてゲームを作り上げていくことで、仲間とともにものを作る喜びも学ぶような場となった。

2022～2023年度の共同研究活動紹介

岐阜かかみがはら航空宇宙博物館との連携実績

- (1) 学習資源を活用した学習環境デザインに関する研究
- (2) 博物館での教育普及活動におけるAR教材コンテンツ活用に関する研究

岐阜かかみがはら航空宇宙博物館（愛称：空宙博）では、昨年度に引き続き、子ども向け講座「ジュニア宇宙博士認定講座」のデザインをIAMASの施設「イノベーション工房」、IAMAS卒業生のデザイナーと連携して展開しました（共同研究1）。

さらに今年度は、子ども向け講座のトータルデザインのひとつとして、空宙博の展示を構成する人工衛星をARを通して学習・鑑賞するシステムを設計することで、子どもたちが体験的に学習する展示空間をワークショップ内で提供しました。今後は、常設展示での展開も含めて検討を続けています（共同研究2）。

目的：

共同研究（1）では、今年度の講座テーマである「人工衛星」をモチーフに、小学校高学年から中学生の子どもたちが学びや達成感を自覚的に得られるよう、全6回の講座を通し活用していく教材のデザイン、制作を行いました。共同研究（2）では、iPadでアプリを起動し、博物館の人工衛星に関する展示にかざすと、衛星が軌道を描いて周回する様子が3DCGで表示されるAR教材コンテンツを制作し、子どもたちが主体的に学ぶための機会の提供を目指しました。

成果：

共同研究（1）と（2）を通じて、受講した子どもたちからデザイン性の高い教材に講座への期待感を高める発言や、講座で得た気づきを積極的にシートに記入していく様子などが見受けられました。デザインプロセスの面では、各回の内容に応じたレイアウト変更や、講師や博物館スタッフなど、デザイナー以外の第三者でも編集可能なフォーマットに関して、全6回の講座の中で展開を重ねたことで知見を得ることができました。

連携先：岐阜かかみがはら航空宇宙博物館

連携期間：2023年4月-8月

[共同研究（1）]

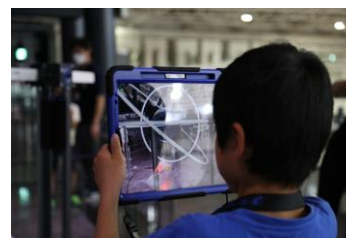
担当教職員：赤羽亨、高森順子、榎井孝暢

デザイン：大山千尋（IAMAS卒業生）

[共同研究（2）]

担当教職員：赤羽亨、高森順子、榎井孝暢

AR開発：伏田昌弘（IAMAS卒業生、東京コンピュータサービス株式会社）



共同研究（1）においてデザインした教材は、①ロゴマーク、②スライド、③ワークシート、④リフレクションシート、⑤合格証、⑥人工衛星シール、⑦修了証。修了証は、人工衛星の太陽光パネルで採用されている「みうら折り」をデザインに落とし込み、子どもたちが楽しみながら振り返ることができるように工夫した。

共同研究（2）では、既存の展示空間にARを通じてアップデートを図ることで、子どもたちが主体的に学べる仕組みづくりを行った。

出版 広報

- IAMASの研究や各種の活動について認知や関心を高めるための広報活動を行っています。
- 教員による研究や活動を掲載する「紀要」や、プロジェクト成果を纏めた冊子など、IAMASの研究活動の記録も行います。

2023.09現在

情報科学芸術大学院大学紀要

Journal of Institute of Advanced Media Arts and Sciences

第14巻 2022年

[特集1]

- ねお展：アジールであり続ける地域のこれまでそしてこれから
ねお展であり続けてきた地域のこれまでそしてこれから 紙面座談会

[特集2]

- IAMAS ARTIST FILE #08
福島諭 「記譜、そして、呼吸する時間」
エレクトロニック ラーガのための室内楽
福島諭 「記譜、そして、呼吸する時間」展

[特集3]

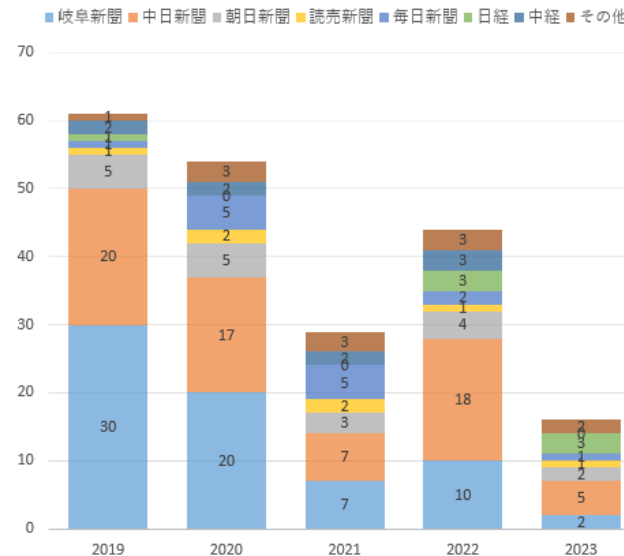
- IAMAS ARTIST FILE #07
「ビデオ／からだと情報」
出品作家インタビュー ほか

[特集4]

- 岐阜おおがきピエンナーレ2021 国際シンポジウム LIF---E
部分的に生きているもの、エクストリーム・バイオロジー、エイリアン生命
マイクロパフォーマンスについて 芸術における別の生き生きとしたエージェンシー ほか



新聞掲載件数



雑誌掲載 ※2022.9現在



デザイン誌「idea」
2022年7月号

デザイン誌『idea(2022.7月号)』で、卒業生の田中良治氏の
記事が掲載されました。
『特集 田中良治
光るグラフィック』



「REAR」
2022年12月号

『REAR (12月号)』にて、
IAMAS ARTIST FILE#08福島
諭「記譜、そして、呼吸する時間」
がとりあげられました。



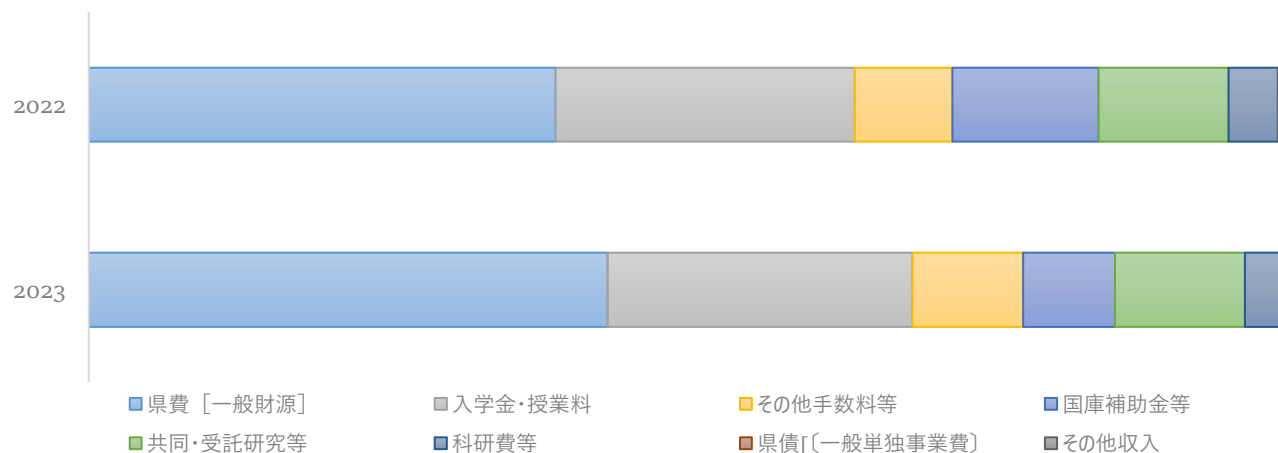
「映像作家100人」
2023年4月刊行

『映像作家100人』にて、博士
前期課程2年の新垣氏が、映
像作家100人に出選され、また制
作作品が掲載されました。

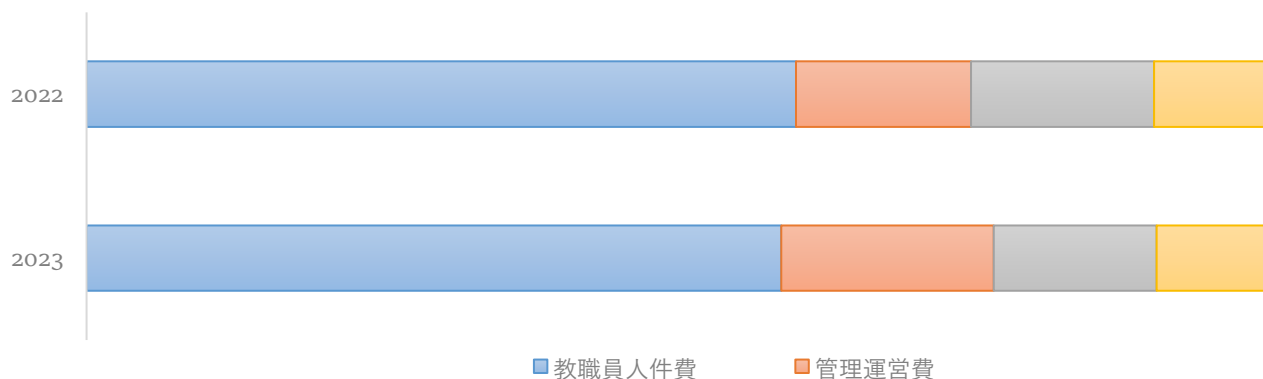
運 営

- IAMASの運営に関する予算は以下のとおりとなっており、歳入の約8割は岐阜県予算から措置されています。

		(千円)	
- 歳入の部		2023	2022
県費 [一般財源]		459,011	453,102
入学金・授業料		34,654	34,007
その他手数料等		12,583	11,092
国庫補助金等		10,452	16,636
共同・受託研究等		14,800	14,800
科研費等		5,600	5,600
その他収入		274	169
県債〔一般単独事業費〕		0	0
合 計		537,374	535,406



- 歳出の部		2023	2022
教職員人件費		313,855	320,532
管理運営費		95,970	79,080
教育研究費		73,578	82,723
施設整備費		53,971	53,071
合 計		537,374	535,406



[主な用途]

管理運営費：校舎維持、非常勤講師、広報、入学試験
 教育研究費：PJ研究、教員研究、特別給付生
 施設整備費：校内システム設備整備、図書館運営

(単位:千円)

一 授業料、入学料その他の費用

- 入学前に必要な費用

入学金
 県内の者:226,000円
 県外の者:338,000円

- 在学時に必要な費用

授業料
 年額 535,800円
 前期 04月30日までに納付
 後期 10月31日までに納付

- 入寮者のみ

寮費 22,800円/月
 共益費 35,000円/年 (前納)

- 授業料減免に関する情報

学業に精励し、人物健全な者で、次の各号のいずれかに該当する場合、授業料の減免または 納入期限の延長が認められる場合があります。

1. 生活保護法第6条第1項に規定する被保護者の世帯に属する者
2. 長期疾病、生業の不振又は失業のため、その生計が著しく不良となり、前号の被保護者に準ずる程度に困窮していると認められる世帯に属する者
3. 天災その他の災害により著しく損害を受け、学資の支弁が困難な世帯に属する者
4. 知事が別に定める基準により情報科学芸術大学院大学特別給費生として認めた者
5. その他知事が特に減免等の必要があると認めた者

一 情報科学芸術大学院大学に対する大学評価（認証評価）結果

情報科学芸術大学院大学は、公益財団法人大学基準協会による2021年度大学評価（認証評価）の結果、同協会の定める大学基準に適合していると認定されました。

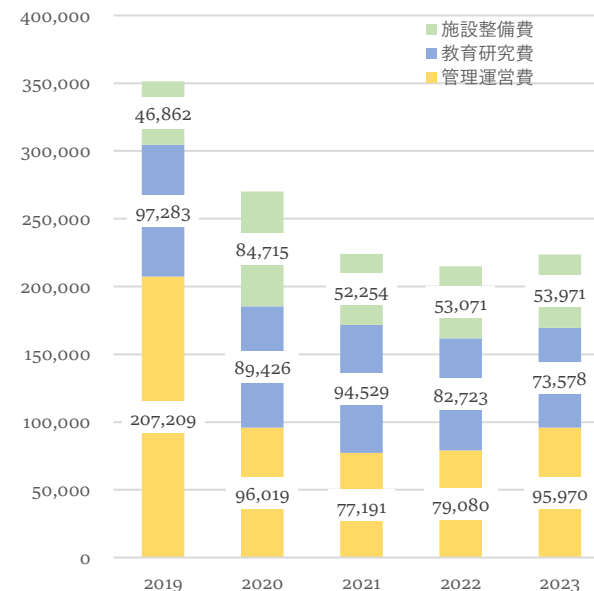
認定期間:2022年4月1日 - 2029年3月31日

一 中期目標及び中期計画

情報科学芸術大学院大学中期目標及び中期計画を策定し、IAMAS WEBに掲載しています。(独立行政法人化されていない大学の策定は任意)

計画期間:2018年4月1日 - 2024年3月31日

一 運営事業費(当初予算額)の推移(人件費を除く)



※2019年度は、管理運営費に学生寮外壁等修繕工事費を含む



学 生 支 援

- IAMASの学生は、多様な専門分野、様々な地域から入学があるため、進路についても多様な要望に対応する形で支援しています。
- 学生の皆さんが、研究や制作活動に打ち込めるよう生活についての支援も行っています。

- キャリアセミナー

学生が進路を検討するために必要な支援を行っています。

- 第1回キャリアセミナー 2022年4月8日(金) 午前 * オンライン開催
テーマ: OB/OGの紹介
- 第2回キャリアセミナー 2022年5月6日(金) 13:20~16:30 * オンライン開催
古い磁場産業からどのような可能性を生もうとしているのか、そもそも家業を継ぐとはどういうことか、家業のイノベーションとは何か、地域やまちづくりとの関係などをテーマに講師から話を伺いました。
講師: 玉川 幸枝さん (たまがわ・ゆきえ)
玉川釉薬 役員 / 合同会社プロトビ・TILEmade 代表
- 第3回キャリアセミナー 2022年9月26日(月) 13:20 - 16:25 * オンライン開催
在学生が進路を考える際に参考となるよう、身近な本学修了生からの声を聴く機会を提供しています。
松本典子さん 合同会社BYNUMBERS 展示システム系の会社を運営
永松歩さん フリーランスでクリエイティブ系の制作、作品制作等
五十川泰規さん 佐藤研吾建築設計事務所
ミスタニ タマミさん 多摩美術大学助手、作家活動

- キャリアカウンセリング

学生一人一人に対し、担当教員が進路について面談を行っています。

- 国際交流員

海外出身の教員や交換留学生のサポート、IAMAS研究成果の海外発信などのため、自治体国際化協会(クレア)「語学指導等を行う外国青年招致事業(JETプログラム)」を活用し、国際交流員(Coordinator for International Relations [CIR])を受け入れています。

学生の研究活動にも大きな支援となります。

- 交換留学制度

IAMASでは、海外の教育機関との学生交流事業を実施しています。

このプログラムは、学生に海外で豊かな経験を積んでもらうもので、毎年2名が提携校に1~3か月留学するとともに、提携校の学生がIAMASに滞在し、互いに交流を深めます。

現在の提携校: リンツ美術工芸大学(オーストリア)

* 2022年度: M1学生1名留学、リンツ工芸大学学生1名を受入。

- 学生寮 [RIST]

学生寮[RIST]は、IAMASから約1.3Kmの住宅街に位置し、ユニットバス、ベッド、電気調理器具など快適さと機能性を備えた生活空間となっています。また、学生が利用しやすい寮費としています。(オール電化のためガス調理器具・暖房は使用できません。)

大垣市藤江町1丁目1-7

全40室(洋間)



- 仮眠室

夜間の帰宅困難時はセンタービル2階に、仮眠を取ることができる和室があります。研究活動で疲れた身体を癒します。

- 保健室

月曜日から金曜日(休日を除く)の午前9時~午後3時45分の間はセンタービル3階の保健室に常備薬を置き、怪我の応急処置に看護師が対応します。健康に関すること、毎日の暮らしに関すること、精神面のことなどの相談に対応するほか、気分の優れないときには休養室で横になって休むことができる場所となっています。

- カウンセリングルーム

月に4~5回(火曜日または金曜日:12時30分~16時30分)、センタービル3階保健室2では、随時カウンセリングを行っています。臨床心理士の2名のカウンセラーが交代で対応します。

- シャワールーム

ドリームコア6Fにあるシャワールームを利用することができます。

入 試

- 入学生の獲得に向けて、毎年、進学相談会を実施するとともに、夏にはオープンハウスを開催しています。
- また、入試に関する相談や学校見学は随時受け付けしています。
- 県外での進学イベント、進学説明会、相談会とオンラインでの進学説明会を行い、入学生の獲得に取り組んでいます。

IAMAS OPEN_HOUSE2023

2023年7月23日(土)-23日(日)の2日間にわたり、「iamas open_house: 2023」を開催しました。昨年度に続き、IAMASキャンパスで開催するもので、間近で教員・学生の研究や作品、パフォーマンスを見ていただくとともに、進学相談会、進学説明会、学内ツアー等を通じて、教員や在学生との交流を図る機会となりました。

進学説明会

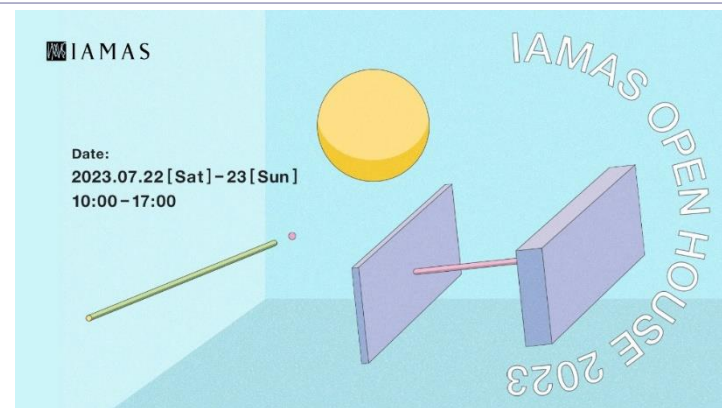
本学教育課程の主な流れと研究活動について紹介し、入試日程や入試方法、出願手続きなどについて説明しています。

日 時：2023年7月22日(土)～23日(日) 11:00～12:30
場 所：ワークショップ2 4 5 F R-cafe (対面のみ)
参加人数：7月22日(土) 4名 7月23日(日) 8名

進学相談会

本学への進学を考えている方のために、本学教員が、受験、制作・研究の進め方、学校生活などの相談を受けています。

日 時：2023年7月22日(土)～23日(日) 10:00-17:00
場 所：ワークショップ 2F Co-Labo-SOPIA (対面のみ)
参加人数：7月22日(土) 13名 7月23日(日) 21名



進学説明会・相談会

オンラインでの進学説明会

【第1回】

日 時：2023年4月13日(木) 19:00-20:30
参加人数：47名

【第2回】

日 時：2023年7月13日(木) 18:30-20:00
参加人数：32名

東京会場

日 時：2023年6月17日(土) 13:00-17:00
場 所：NATULUCK淡路町会議室(荒木ビル)
参加人数：14名(説明会) 8名(相談会)

進学イベント

IAMASフォーラム京都編

日 時：2023年6月10日(土) 13:00-19:00
場 所：Fab Café Kyoto
参加人数：12名(ワークショップ) 34名(トークイベント)

